



ズイの謎も含めて夜の水族館観察を続けたいと思つてゐる。

6月初旬、薄暗くなつてきてきた北浜で、異様な光景に遭遇した。浜辺に打ち上げられるものと調べる観察を終えようとしていたところ、波打ち際に海藻のよつた一塊りの物体が打ち上がる(うご)していた。よくよく見て

海のナマズと言えばゴンズイである。夜行性で日本の中南部以南に分布し、東南アジア、紅海、南アフリカ沿岸まで広く生息する。世界でゴンズイ科は9属約30種が知られている。わが国ではゴンズイ1種だけだが、将来2種になる可能性がある。

普通、黃色い縦じまと4対のヒゲがチャームボイントだが、夜になると横じまになっているのを

その縦しまが消えて、背の部分に横じまが7、8本できるのが本当の姿だと言われている。

ところが、文献や図鑑、インターネットで調べてみると、このような図も写真も掲載されていない。「魚類心理学」が専門の舞鶴実験所の益田逸爾さんに問い合わせたところ、「夜間潜水でゴンズイをよく見掛けるが、

可愛い毒魚  
ゴンズイ

京都大学助教授  
**久保田**  
**信**  
(瀬戸臨海実験所)

# 宝の海から

36



6月19日に北派を「封號」していたゴンゴイモトは捕獲した1個体

# しま模様「縦から横へ」

所の水族館は年中無休、開館時間も午後5時半までとなつた。時々、消灯して真っ暗な夜の水族館観察に学生たちを連れていくが、謎のしま模様のゴンズイには出くわさない。他の夜行性の魚たちと一緒に元気よく泳いでいる。

夜行性の魚に比べて昼に活動する魚は静かに眼ついている。中には砂の中にもぐりこんでいるが尾ビレを震すのを忘れたあわてるものいる。眠つている魚の体はずいぶん黒ずんでいるのが一目でわかる。反応も



瀬戸漁港に今年初めて出現したゴンズイ玉、まだ体長数センチにならない幼魚數十個体から構成される（6月18日）

てしばりく見てくるが、  
2匹はすっと寄り添つて、  
行動をともにしている。  
小さなわりに中でも社会  
的動物の性格が出てい  
た。

も気を付けないといけない。堅い棘はさうりや長い棘などを簡単に突き裂いてしまつ。

ゴンズイの産卵形態は残念ながらあまりよくわかつてない。野外と水槽内では異なることもあるようである。1ペアあるいは複数が放卵放精するのだが、沿岸の浅場の砂泥底で、石などの下にくぼみを掘つて産卵床を作つて産卵する。卵は雄親が孵化するまで保護する。タツノオトシゴと同様にゴンズイも雄は実際につけなげである。

見たい」ではない。しかし、それは一つの物  
おびえたと遙かに横じ  
まを出す可能性がある」と教えてくださいた。そ  
の姿をぜひ見たいと思つ  
て想像図を描いてみた  
が、読者の皆さんも横じ  
まのゴンズイを見つけた  
らカメラやビデオに收め  
て連絡してほしい。

△

今年から瀬戸臨海実験  
は逆回りに円を描きながら泳ぐ。打ち寄せる波を

り刺されよつものなら、  
刺された個所にもうひと  
つ心臓ができたように脈  
打ち、いても立つてもい  
られなくなるくらいです  
く。背ビレ、腹ビレ、胸  
ビレの一番前が大い棘に  
なっており、ひどい場合  
には歿死(えし)したり、  
意識消失や呼吸困難、血  
圧降低など全身症状が起  
こつたりするから恐ろし  
い。

の群れである。数十個体が見事に「丸」となつて崖壁に沿つて行つたり来たり。その形も刻一刻変わつてゆくので見ていても飽きない。彼らもやがて成長して成魚になると単独生活をするようになるのだ。